

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100260		
法人名	有限会社フローラ		
事業所名	グループホーム上砂川(ユニット楽)		
所在地	北海道空知郡上砂川町下鶴南2条1丁目3-1		
自己評価作成日	令和 6 年11月8日	評価結果市町村受理日	令和 7 年2月 5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyosv_oCd=0177100260-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和 6 年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ落ち着いた雰囲気で四季を感じられる上砂川唯一のグループホームです。2ユニットそれぞれ家庭的な雰囲気、ご家族様に気兼ねなく訪問、交流していただける環境づくりを目指しています。また地域交流も積極的に行い、百歳体操、小学校行事参加、まちなかカフェなどにも参加しています。ホーム内の飾り付けも季節ごとに変え利用者様に楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、道央道奈井江砂川ICから車で約10分程の交通の便に恵まれた公営住宅などが立ち並ぶ自然豊かな閑静な住宅地にある。木造1階建て、玄関を入ると正面に事務所、玄関を挟んで左右に各ユニットがあり、事務所から両ユニットが見渡せ、利用者の安心・安全に繋がっている。居間・食堂は一体的で、折り紙の作品やクリスマスツリーなどの季節感あふれる飾り付けをして家庭的な雰囲気となっている。飾り付けは利用者と一緒に作っている。利用者は小学校の学習発表会見学や、まちなかカフェへ参加したり、事業所の百歳体操教室に地域住民が参加し交流している。お盆には子ども獅子舞が事業所を訪問したり、地域住民からニンジン、じゃがいも、キャベツ等の差し入れがあり、地域との交流に努めている。居間で寛ぐ利用者も多く、インドネシアから3人の技能実習生を迎えており、事業所全体に活気を与えている。利用者は午前中は体操で身体を動かし、午後は歌のDVDを鑑賞したり、パズルやテレビを楽しむなど思い思いにゆったりと過ごしている。運営者は定期的に事業所を訪問し、職員の意見・要望を聞いて働きやすい環境作りにも努めるとともに、利用者にとってより良いケアの質の向上を目指している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を提示し理念に沿った支援を心がけ実践しています。	法人の理念、事業所理念「心も体もゆったりと楽しく安心して自分らしく暮らす」を玄関や各ユニットに掲示し、職員は会議等で共有して日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	百歳体操、防災訓練など地域の方との交流する場所に参加しています。	小学校の学習発表会見学や、まちなかカフェへ参加したり、事業所の百歳体操教室に地域住民が参加し交流している。お盆には子ども獅子舞が事業所を訪問するなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の認知症の会に加盟し情報交換やアドバイスなどを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に利用者様も参加して頂き、意見を聞きながらサービス向上に活かしています。	年6回開催し、認知症の会会長、自治会長、地域包括支援センター職員、町職員等が出席して運営状況、活動報告等を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、包括支援センターに相談しその都度助言を頂いています。	福祉課や地域包括支援センターの職員に運営状況の報告やコロナ禍感染防止対策など相談したり、電話やメールで助言やアドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が必要な利用者様はいませんが、身体拘束適正化委員会を設置しており定期的な研修を受け学ぶ機会をもっています。職員一同、身体拘束を行わない支援に取り組んでいます。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、身体拘束適正化委員会を年4回開催し、身体拘束をしないケアに努めている。議事録は職員全員に回覧し、研修や勉強会を実施するなど学ぶ機会を設けている。玄関にはセンサーコールを設置し、職員の見守りや声かけで利用者の不意の外出に備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底についても、外部研修、内部研修を受け学ぶ機会を持ちミーティングでも職員どうしの情報交換を行い虐待防止に努めています。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人を利用している方もいます。内部研修などを行い活用できるかたが居た場合は引き続き利用したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時には十分な時間を頂き説明しています。不安な事、疑問点が無いよう何度も説明を行いご理解を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来客時などに直接お聞きしています。ご利用者様にも直接お聞きし運営に反映しております。	職員は利用者の意見や要望を日々のケアの中で聞き取り、職員全員で共有し反映させている。家族からの意見や要望は、面会時などに、来所時には積極的に会話を交わし、電話時にも情報提供し意見、要望を聞くように努め運営に反映させている。	家族等には来所時や電話等で情報提供し意見・要望等を聞いている。現在広報誌は発行していないが、利用者の日常の様子がわかる写真などを記した便りの発行を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やミーティング時に意見、提案がでます。それ以外にも常に言いやすい環境作りにも配慮しています。	管理者は職員と話しやすい関係を築いており、申し送り時や連絡帳、グループラインの活用など、日々職員からの意見に耳を傾けている。運営者も定期的に事業所を訪れ職員と面談をする機会を設けており、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に話す機会を作っています。労働時間やシフト形態など職員の要望に沿った勤務体制にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修で学ぶ機会を増やし、外部研修にも積極的に参加して頂ける様に知識や向上心を高めています。外部から講師をお招きし勉強会なども積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や広域連合でのGH会議などなるべく多くの研修に参加できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、情報集取すると共に困っていること、不安なことを聞き安心出来る関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問、来所して頂きご家族様の困っている事、心配事などをお聞きし解決出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当の介護支援専門員、職員とミーティングを行いご本人にとって一番必要な支援を提供出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付け、掃除、洗濯物を畳んで頂いたり出来る方には手伝って頂き日々の暮らしを一緒に過ごすことでお互い支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所して頂けるように取り組んでいます。ご意見、情報を共有しご家族様スタッフ同じ思いで支えていけるよう心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、ご友人等馴染みの関係をできる限り継続維持出来るように努めています。	家族や知人との面会、家族との外泊や食事、2ヶ月に1度の訪問理美容、小学校の学習発表会見学、まちなかカフェへの参加など、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く暮らせる様に支援していますが性格、認知症の度合いによって厳しいケースも見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご家族様の相談に応じておりますがほとんどが契約終了時に関係が断ち切られてしまうことが殆どです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動や行動などからご本人の意向の把握に努めています。困難な場合も出来るだけご本人の意向に沿ったケアを実践出来るよう努めています。	利用者との会話、表情や仕草で思いを汲み取るよう努めている。担当制を用いず職員全員で見守る体制を築いており、利用者からの要望は申し送り時に伝え共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ご本人から生活歴など情報を得ております。また調査票なども頂き把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の利用者様との会話などコミュニケーションをとる中で、の気付きを職員同士で情報交換を行い現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に必要の関係者と話し合っ て現状に即した計画を作成しています。	利用者と家族の意向を反映させて、担当職員が中心となり職員と話し合っ て短期は6ヵ月、長期1年毎に介護計画を作成し、家族からの確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録を作成し介護経過の見直しにいかして おります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や利用者様の状況を把握し状況にあったサービス状況に応じた対応が出来る様努 めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練、運営推進会議、防災訓練など地域の方々や行政の方との関わりを維持し支援に努 めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前の説明で主治医のご紹介や説明を行い理解して頂き当ホーム主治医に変更される方が多い です。必要に応じて他院への通院も支援しています。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医への受診や往診の支援をしている。基本的に付き添いは家族が行っている。2週間毎に協力医の訪問診療を受けるなど医療機関との連携も取れている。緊急時には適切な指示を速やかに受けることができてい る。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師が訪問にきて頂ける為連携し相談や必要な処置が出来て います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や総合病院の地域医療連携室、市町村との連携をとって対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、ご本人様、職員と十分話し合いを行いご本人様にとって一番良い方法を考えるように努めています。	契約時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に基づき説明し、利用者、家族の同意を得ている。重度化した際は、利用者や家族の意向に沿いながら、利用者、家族が主治医と話し合い、希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は常に職員ミーティングでも確認しています。また消防職員主催の普通救命講習も受講し実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町主催の防災訓練にも参加し、年2回の避難訓練、通報訓練も行っております。BCPの見直しも定期的に行いシュミレーション研修、訓練も行っております。	年2回(夜間想定)1回は消防職員立会の火災想定避難訓練を実施している。10月には町主催の防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。業務継続計画(BCP)を策定し、備蓄品リストの整備や消防団長、自治会長などとの地域協力を得るための緊急連絡網も更新済みである。年1回スプリンクラーの点検を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を尊重しながら、指示、命令口調にならない様声かけを十分に配慮しています。	利用者の尊厳を守ることを心がけ、トイレに誘導するときは他の人に気づかれないように、さりげなく言葉かけするなど、利用者のプライバシーや尊厳を損ねないよう努めミーティングで確認しながら日々のケアに繋げている。個人情報も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定が出来る場面をなるべく多く取り入れるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様にお聞きし出来る限りご本人様の希望を尊重していますが、完全には個別支援は出来ない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様がご自由にされています。清潔感、季節感を心がけ支援しています。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、食事の片付けやテーブル拭きなど参加して頂いています。職員が同じテーブルで食事を一緒にとりながらコミュニケーションを図っています。	職員が献立を作成し、利用者の希望を取り入れながら調理している。利用者は能力に合わせて下ごしらえ、テーブル拭き、片付けなどを行っている。地域の農家からニンジン、じゃがいも、キャベツ等の差し入れがあり、職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量、味付けなど職員で話し合う機会を多くとり個別支援をしています。必要に応じて主治医に相談し指示を頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、夜間の入れ歯洗浄など行っています。また歯科医からの口腔ケア指導を行って頂き実践しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間管理での声かけやトイレへの誘導をパターン化しトイレでの排泄の支援に努めています。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、表情、態度などからさりげなくトイレに誘導し排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や乳製品、水分量などの工夫しています。運動やマッサージなどの働きかけも行っています。自然排便が難しい場合は主治医判断のもと薬を飲まれている方もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中に関しては個々に沿った入浴支援を出来る限り行っています。夜間の入浴支援に関しては現状の人数配置では難しいです。	週2回以上入浴を基本としているが毎日入浴を楽しむこともでき、利用者の希望に添った支援をしている。利用者同士2人で入浴したり、会話をしたり、歌を歌ったりしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やおやつ、体操時などは居間で過ごして頂くよう声かけを行っています。それ以外のお時間は居間、居室で好きな様に過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤ファイルを作り、常に薬剤情報を確認出来るように整理しています。薬剤変更時には申し送りノート、介護経過にも記載し職員全員が把握出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントの中で生活歴、趣味、嗜好品などの情報を集取しホームでの生活でも継続出来るよう支援しています。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそった外出は行えていますが、ご家族様にもご協力頂きながらなるべく多く希望にそった外出が出来るようご本人、地域、ご家族、職員連携し支援しています。	小学校の学習発表会見学や、まちなかカフェへ参加したり、玄関前のベンチで日光浴、歌を歌ったりしてくつろぎながら外の景色を楽しむ機会などを設けている。家族と温泉や食事に行ったり、自宅に外泊して過ごす利用者を地域・家族と協力して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の欲しいものは職員が代理で買いに行ったりして対応している方が殆どですがごく一部の方はご自身で管理され買い物にいかれたりされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者様もいます。他の利用者様に関しては希望時その都度対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節にあったアイテムなどを設置しています。居間の明るさ、温度なども配慮し安心して居心地良く過ごせるように努めています。	明るくゆったりと家具を配置している居間でくつろぐ利用者が多く、折り紙の作品やクリスマスツリーなど季節感あふれる飾り付けが色どりを豊かにしている。飾り付けは利用者と一緒に作っている。午前中は体操で身体を動かし、午後は歌のDVDを鑑賞したり、パズルやテレビを楽しむなど思い思いにゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを設置し風除室にはテーブル椅子、ベンチを置き気の合った利用者様達が楽しんで頂ける場所作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様に説明し、ご本人様がお家で使っていた家具、小物を持ってきて頂き少しでも安心して頂けるように準備して頂いています。	クローゼットが備え付けられ、利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇など好みのものを持ち込み、過ごしやすいよう配置している。壁には家族の写真や塗り絵などの自分で作った作品を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間全体に手すり設置しています。床もバリアフリーになっており車椅子でも安全に過ごすことができます。		